

令和5年度地域幸福度（Well-Being）県民アンケート調査の概要

1 調査目的

国が推進しているデジタル田園都市国家構想では、「地域における豊かな暮らし」（Well-being）と「持続可能な環境・社会・経済」（Sustainability）の実現を目指しています。

デジタル庁は同構想の推進にあたり、客観指標（統計データ等）と主観指標（住民アンケート）のデータを用いて「幸福感」や「暮らしやすさ」を指標で数値化・可視化した地域幸福度（Well-Being）指標の活用を推進しており、鳥取県においても、地域幸福度（Well-Being）指標を今後の施策検討に活用するため、本アンケート調査を実施しました。

2 調査概要

【調査方法】 アンケートフォーム（とっとり電子申請サービス）

【調査期間】 令和6年1月15日（月）～1月31日（水）

【対象者】 鳥取県在住者

【回答数】 832件

令和5年度地域幸福度（Well-Being）県民アンケート調査 回答者属性

年齢区分	計	(構成比)	男性	女性	その他
20代	7	0.8%	5	2	0
30代	68	8.2%	28	39	1
40代	113	13.6%	52	61	0
50代	213	25.6%	83	124	6
60代	266	32.0%	123	143	0
70代	125	15.0%	76	48	1
80代以上	34	4.1%	26	8	0
その他	6	0.7%	3	3	0
合計	832	100%	396	428	8
		(性別構成比)	47.6%	51.4%	1.0%

令和5年度地域幸福度（Well-Being）県民アンケート調査結果

【鳥取県】人口最少県の強みを活かした「顔が見えるネットワーク」で協働・連携

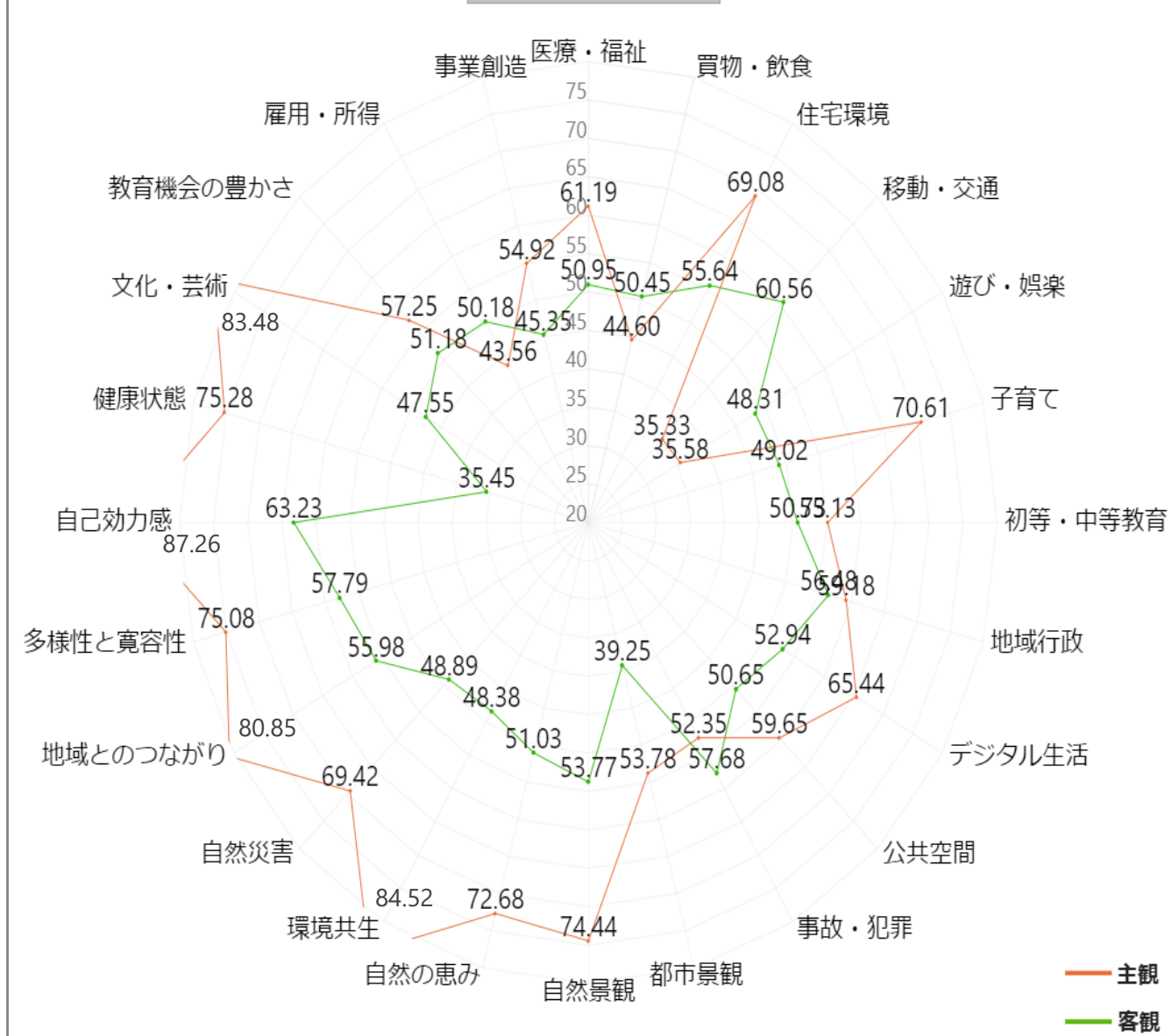
概要

人口	535,032人 (鳥取県の推計人口 (R6.3.1現在))	高齢化率	33.1% (R5高齢社会白書)
可住地人口密度	601.6人/k㎡ (統計で見る都道府県のすがた2024)	昼夜間人口比率	99.8% (統計で見る都道府県のすがた2024)
都市の特徴・周辺地域との関わり	中国地方の北東部に位置し、東西約120km、南北約20～50kmと、東西にやや細長い県。北は日本海に面し、鳥取砂丘をはじめとする白砂青松の海岸線が続き、南には、中国地方の最高峰・大山をはじめ、中国山地の山々が連なる山地の多い地形。気候は比較的で温暖で、春から秋は好天が多く、冬には降雪もある。東部は兵庫県北部と隣接し、「麒麟のまち圏域」として、西部は鳥根県と隣接し、「中海・宍道湖・大山圏域」として、観光や移住定住など様々な分野で連携し、魅力ある圏域づくりに取り組んでいる。		
将来都市像	地域に関わる多様な主体の知恵と力を結集して、本県の強みを伸ばし、持続可能な地域の発展をめざすとともに、人生のあらゆるステージにおいて、心の豊かさを実感しながら充実した生活を安心して送ることができる鳥取県		

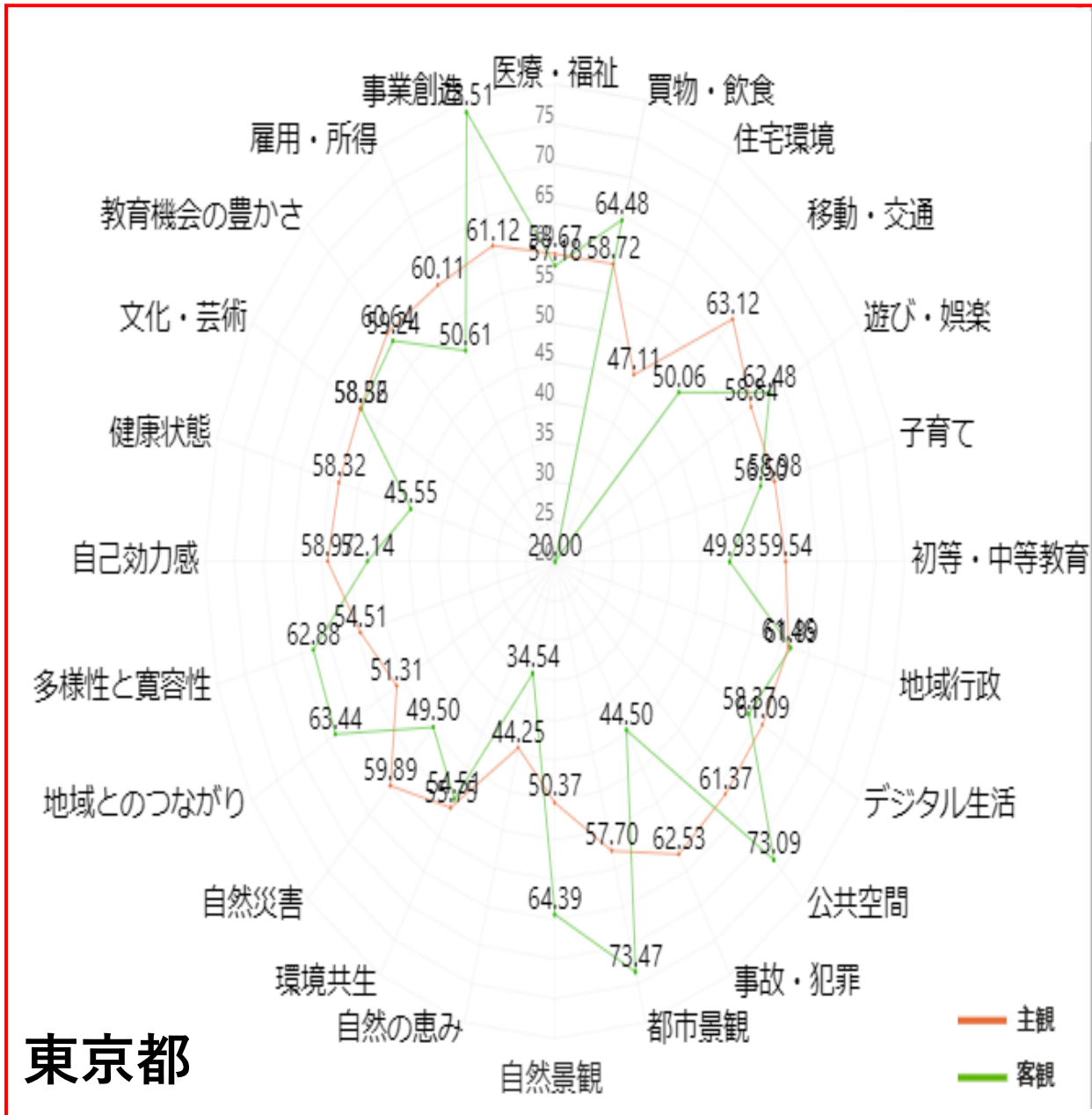
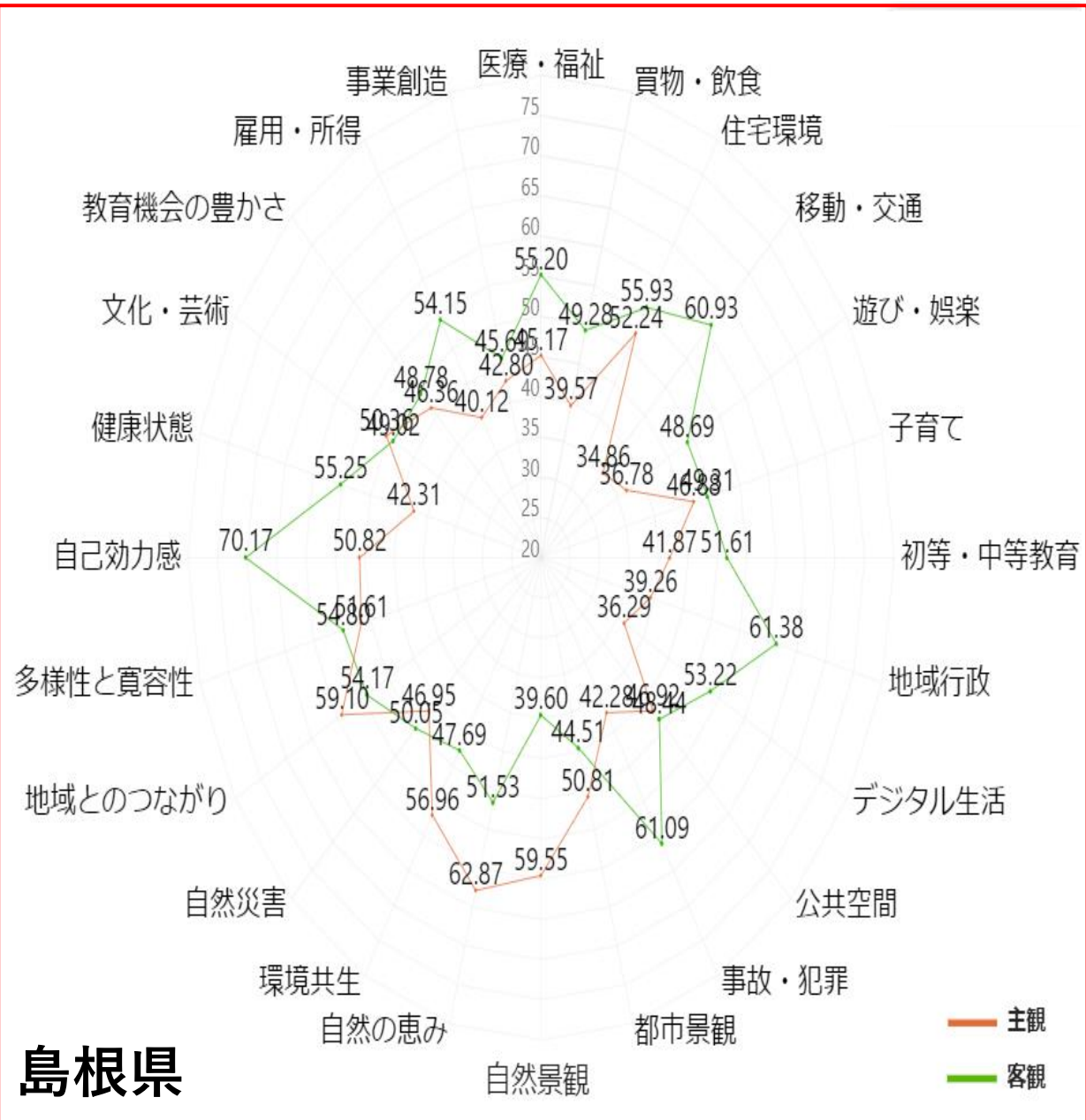
サマリー

- 人口は都道府県で最も少なく、面積も7番目に小さい。
- 地域とのつながり (80.85)、多様性と寛容性 (75.08) の主観指標が高く、本県の強みである「顔が見えるネットワーク」、人が少ないからこそ一人ひとりが尊重される地域特性が表れている。
- 環境共生 (84.52)、自然の恵み (72.68)、自然景観 (74.44) の主観指標が高く、本県の豊かな自然を県民が享受していることが表れている。
- 一方、買物・飲食 (44.60)、移動・交通 (35.33)、遊び・娯楽 (35.58) の主観指標が低く、人口減少社会・中山間地域の課題が表れている。

因子別グラフ

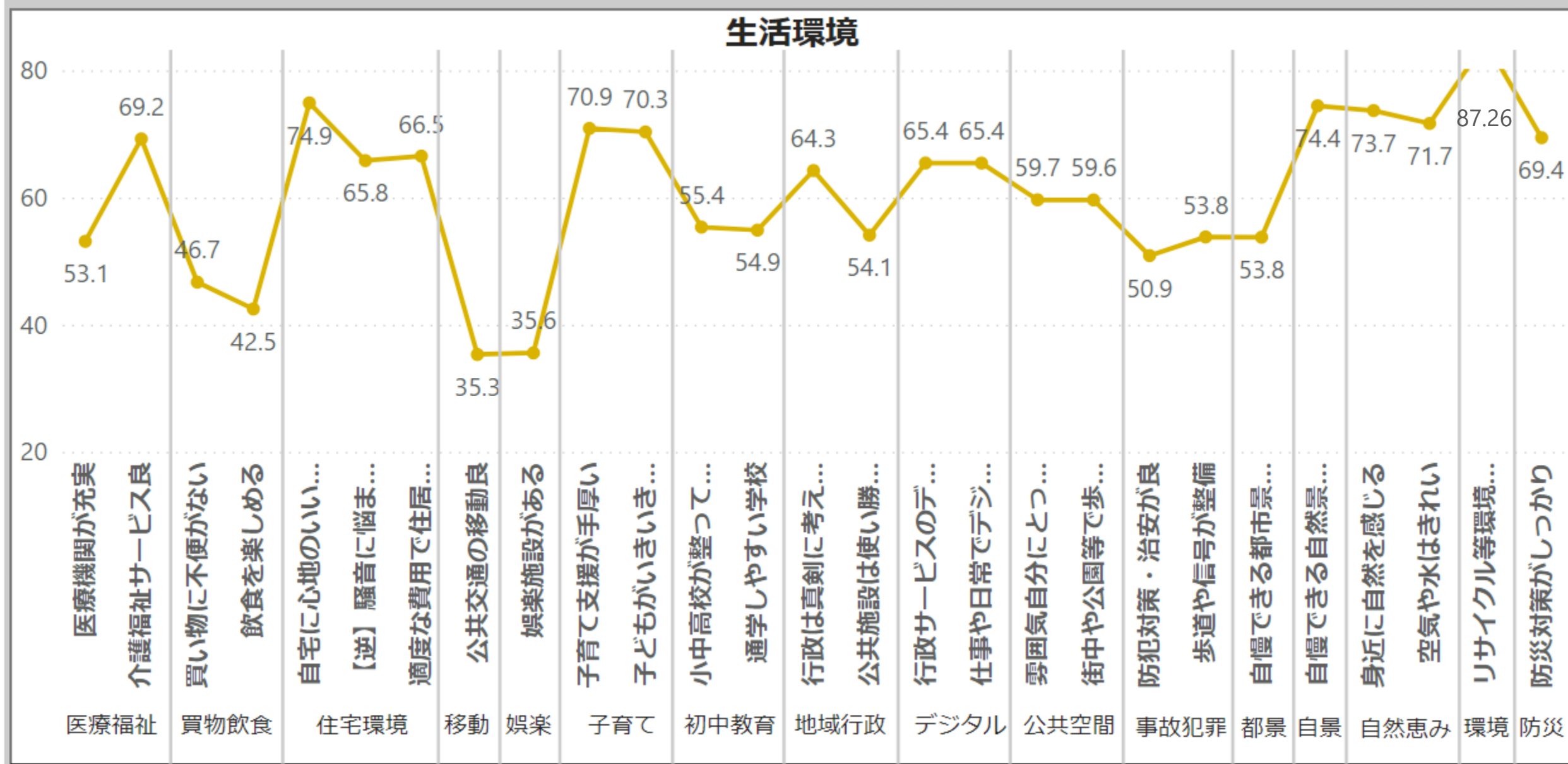


他自治体との比較



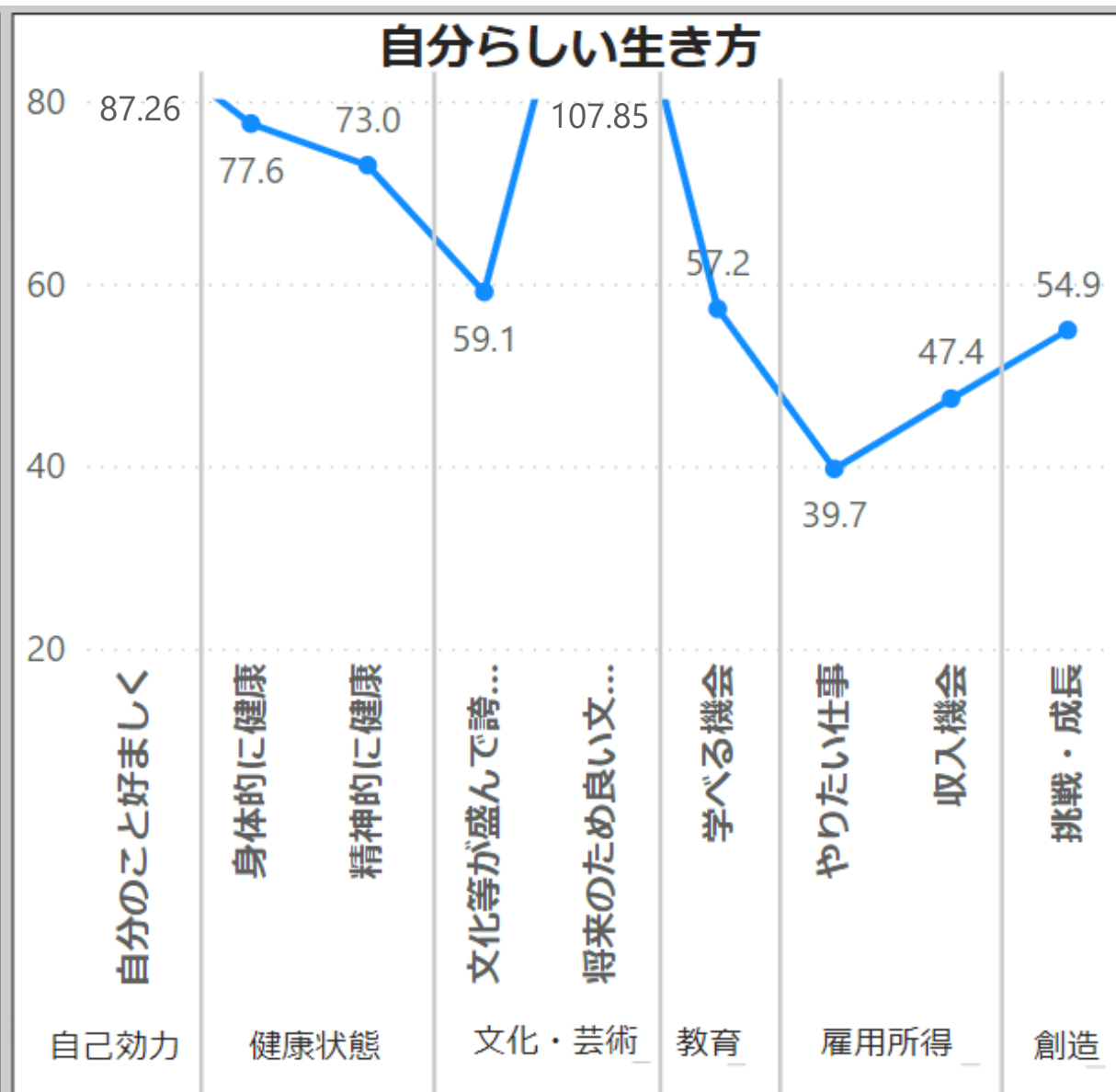
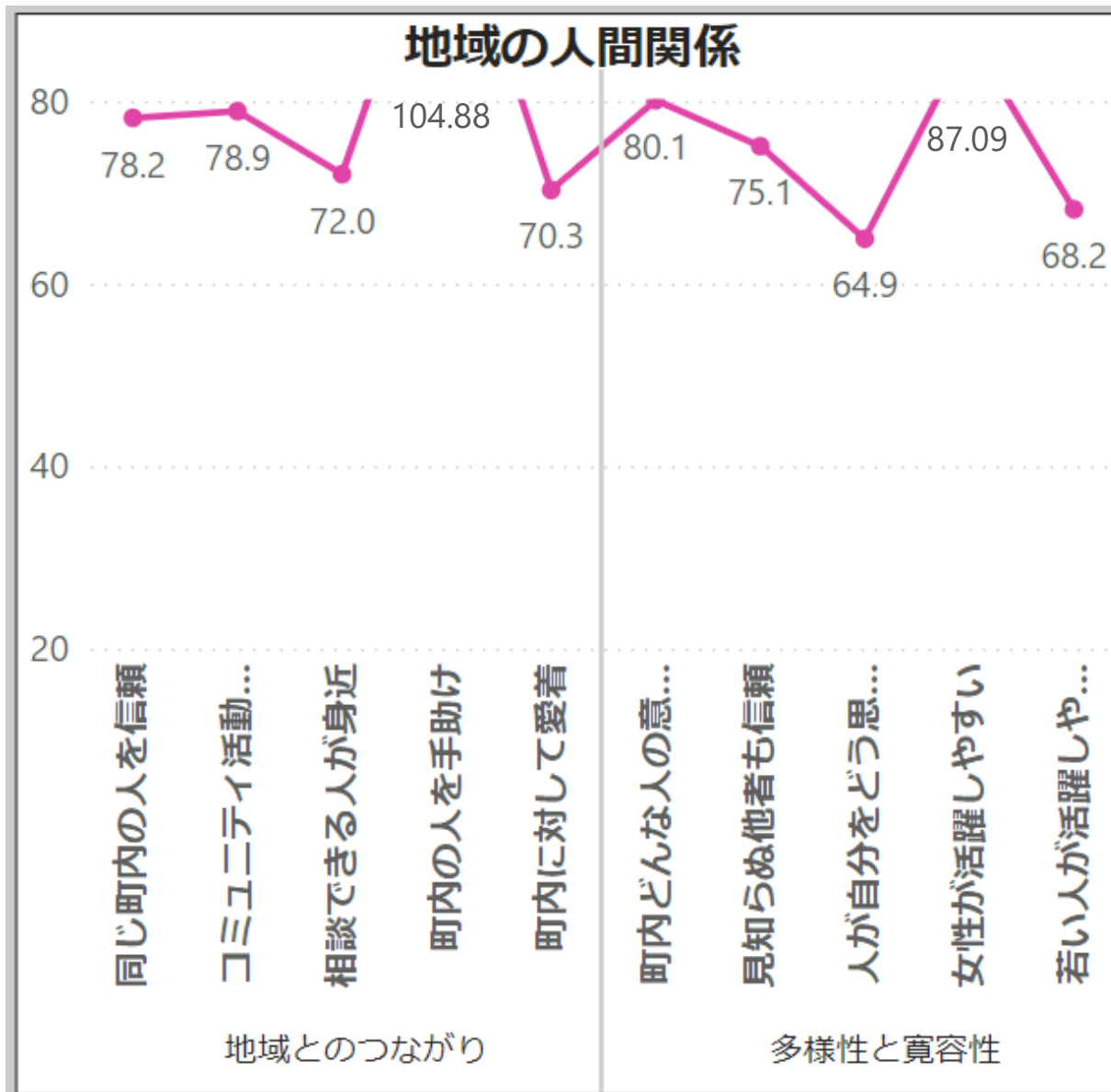
【主観】 ○「住宅環境」、「子育て」、「自然景観」、「自然の恵み」、「環境共生」が非常に高い結果となっている

（生活環境） ○「買物・飲食」、「移動・交通」、「遊び・娯楽」が低い結果となっている



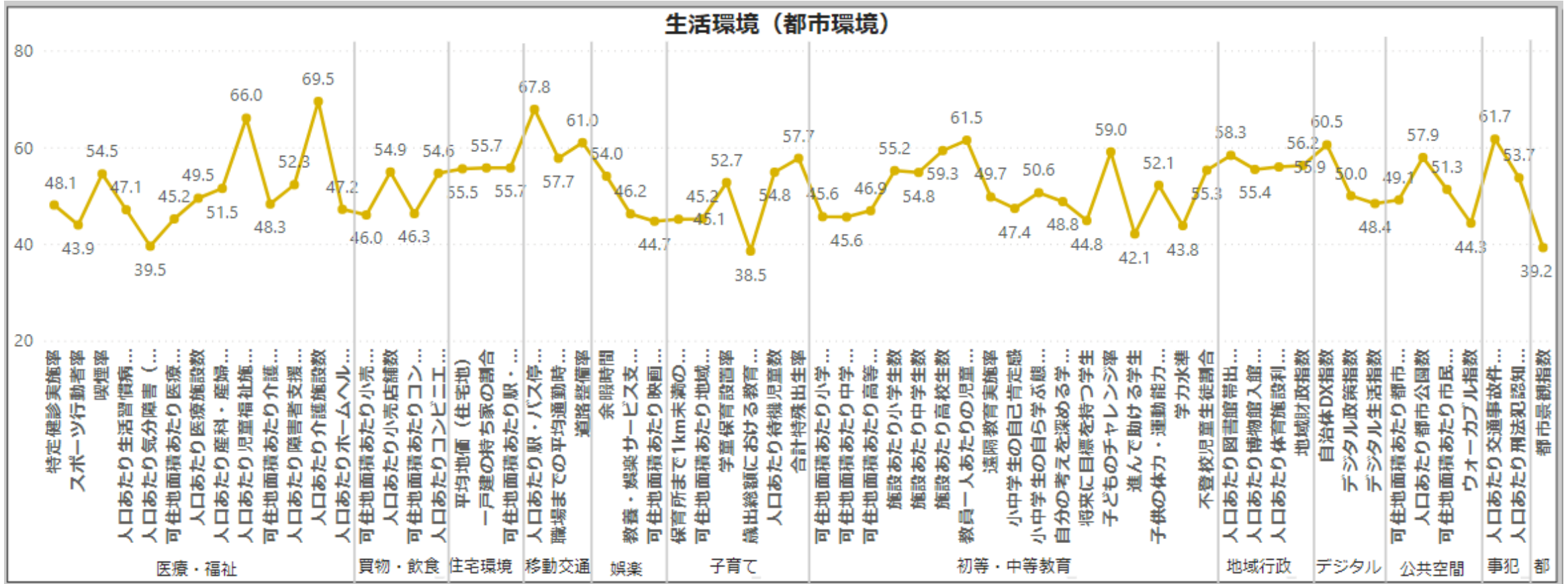
【主観】
**(地域の人間関係
 自分らしい生き方)**

- 地域の人間関係の「地域とのつながり」、「多様性と寛容性」ともに、非常に高い結果となっている
- 自分らしい生き方の「自己効力感」、「健康状態」、「文化・芸術」が高い結果となっている
- 自分らしい生き方の「雇用・所得」は低い結果となっている



【客観】
(生活環境 1)

- 「医療・福祉」の人口あたりの児童福祉施設数（66.0）、人口あたりの介護施設数（69.5）、「移動・交通」の人口あたりの駅・バス停数（67.8）、道路整備率（61.0）、「初等・中等教育」の教員一人あたりの児童生徒数（61.5）、「デジタル」の自治体DX指数（60.6）、「事故・犯罪」の人口あたりの交通事故件数（61.7）が高い結果となっている
- 「医療・福祉」の人口あたりの気分障害（うつ等）受療者数（39.5）、「子育て」の歳出総額における教育費の構成比（38.5）、「都市景観」の都市景観指数（39.2）が低い結果となっている

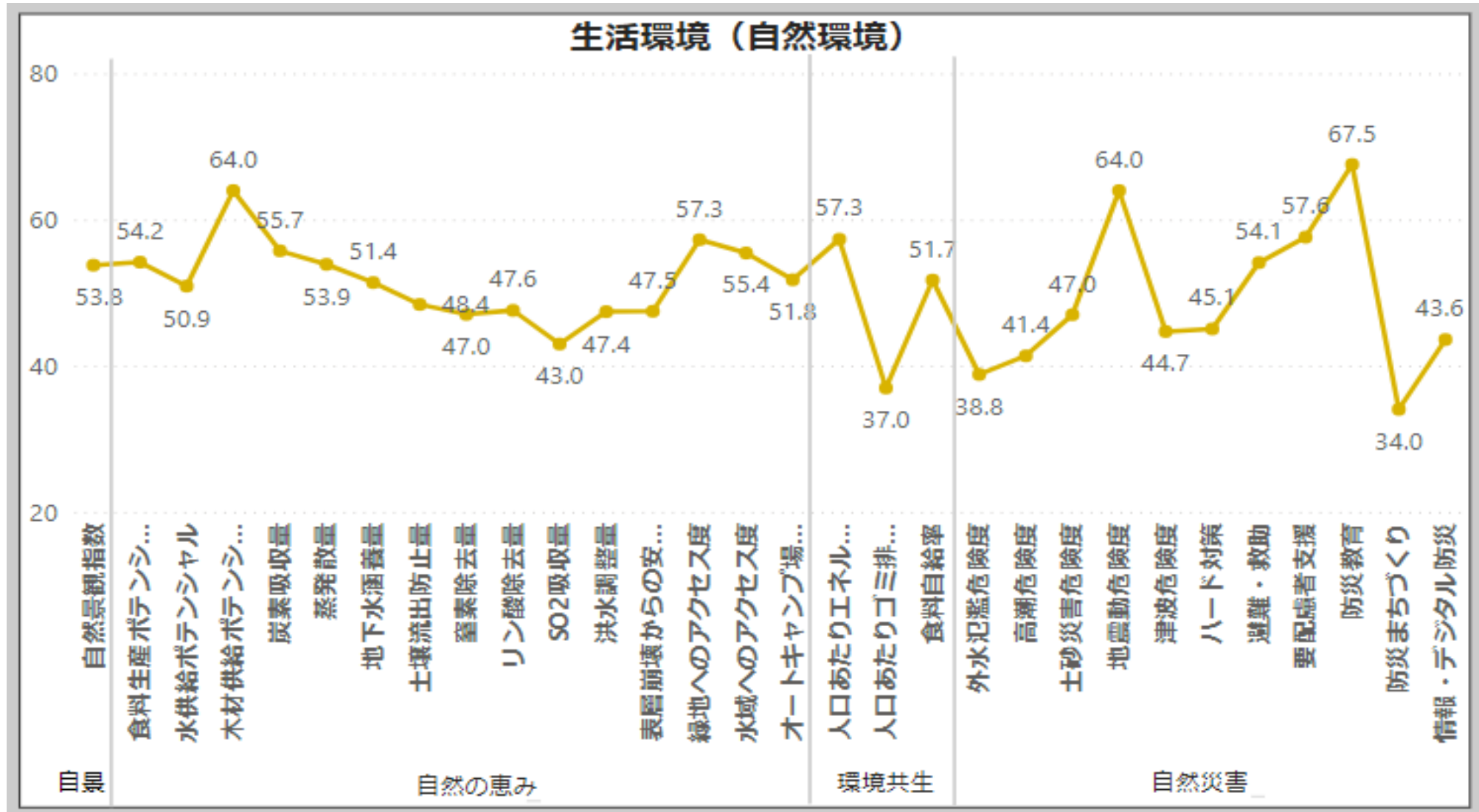


(*) 指数の説明

指数名	指数の意味	集計対象	指数名	指数の意味	集計対象
自治体DX指数	自治体内部のDX推進状況を総合的に評価	・総務省「自治体DX・情報化推進概要」の 카테고리（「自治体DXの推進体制等」、「行政サービスの向上・高度化」等）	ウォーカブル指数	歩きたくなる街並みかを総合的に評価	・ウォーカブル推進都市 ・地方版自転車活用推進計画
デジタル政策指数	自治体による住民のデジタル環境を整える取り組みを総合的に評価	・国交省Plateauの対象 ・オープンデータ公表 ・ローカル5G開発実証事業採択 ・スマートシティ合同審査 ・マイナンバーカード取得率 ・国勢調査ネット回答率	都市景観指数	まちの素敵な都市景観を総合的に評価	・「都市景観大賞」受賞の市区町村 ・景観条例の有無 ・景観重要建造物の有無 ・景観協定の有無
デジタル生活指数	まちのデジタル環境を総合的に評価	・Code for Japan 関連組織 ・ファブラボ ・CoderDojo ・大学のICT関連学部 ・高等専門学校 ・10万人あたりキャリア店舗数	自然景観指数	まちのきれいな自然景観を総合的に評価	・国立・国定公園 ・農林水産省「美しい日本のむら景観百選一覧」 ・景観重要樹木の有無

【客観】
(生活環境 2)

- 「自然の恵み」の木材供給ポテンシャル (64.0)、「自然災害」の地震動危険度 (64.0)、防災教育 (67.5) が高い結果となっている
- 「環境共生」の人口あたりゴミ排出量 (37.0)、「自然災害」の外水氾濫危険度 (38.8)、防災まちづくり (34.0) が低い結果となっている

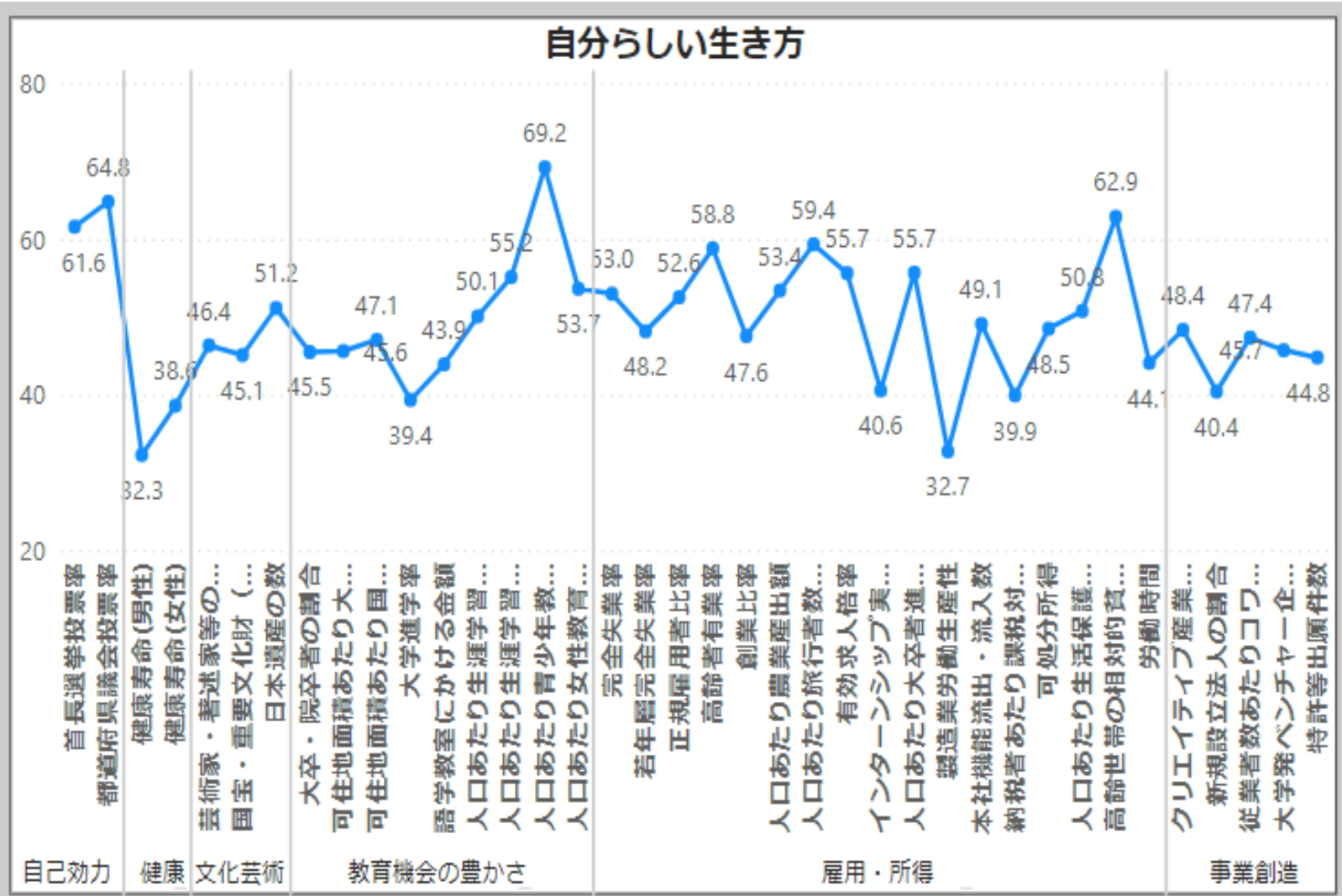
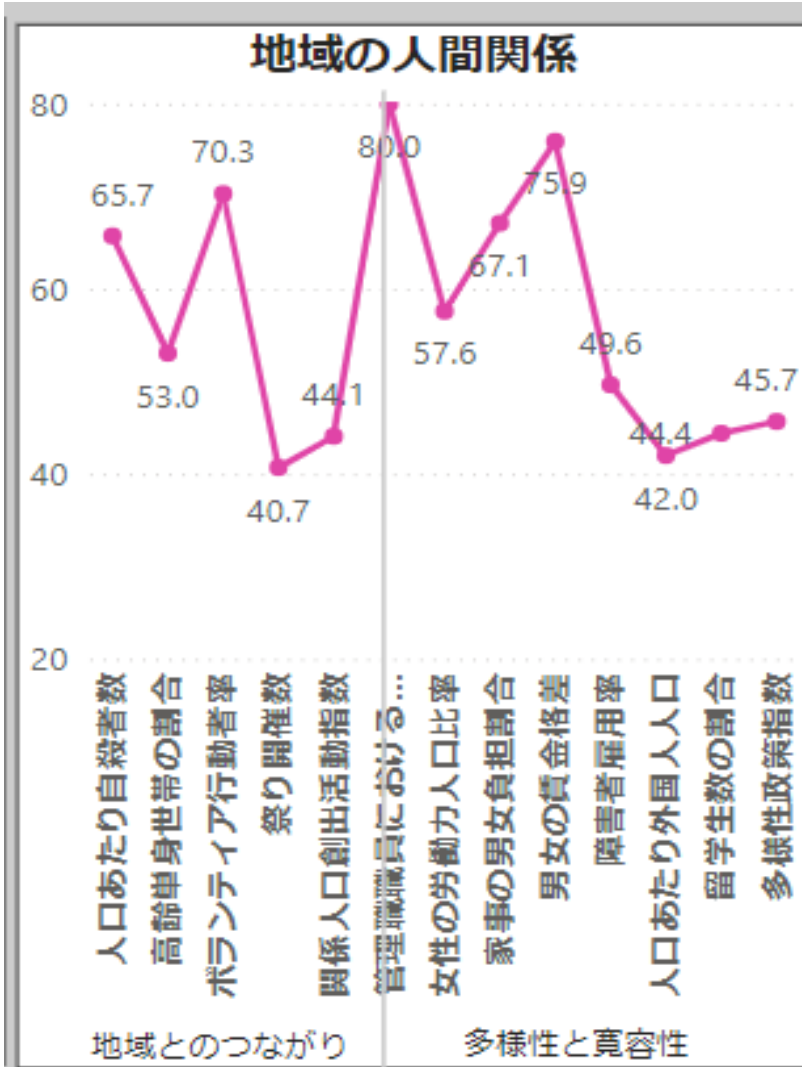


指数名	指数の意味	集計対象
(*)指数の説明 環境共生指数	自治体における環境共生への取り組みを総合的に評価	・SDGs未来都市 ・2050年CO2排出実質ゼロ表明 ・参加 ・脱炭素先行地域 ・グリーン契約の契約方針 ・気候変動イニシアティブへの

【客観】

(地域の人間関係
自分らしい生き方)

- 「地域とのつながり」のボランティア行動者率（70.3）、「多様性と寛容性」の管理職職員における女性の割合（官民間わず）（80.0）、男女の賃金格差（75.9）、「教育機会の豊かさ」の人口あたり青少年教育施設利用者数（69.2）が高い結果となっている
- 「地域とのつながり」の祭り開催数（40.7）、「健康状態」の健康寿命（男性（32.3）、女性（38.6））、「教育機会の豊かさ」の大学進学（39.4）「雇用・所得」の製造業労働生産性（32.7）、納税者あたり課税対象所得（39.9）が低い結果となっている



(*)指数の説明

指数名	指数の意味	集計対象
多様性指数	住民の多様性を総合的に評価	・パートナーシップ宣誓制度 ・住民の平均年齢が45歳以下であること